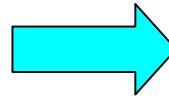


## 今年の災害の特徴(たたき台)

今年の水害、土砂災害、高潮災害の様相は、自然的状況、社会的状況の変化による新たな災害対策の課題を明らかにした。

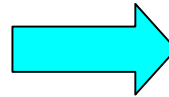
### 1. 自然的状況

局所的な集中豪雨が多発



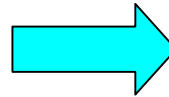
- ・ 流域が比較的小さい中小河川での洪水や土砂災害の増大
- ・ 情報をはじめ迅速な警戒避難体制が必要

これまでの記録を超える降雨量、高潮の波高・波力などが各地で発生



自然の外力は施設能力を超える可能性が常にあることをふまえた備えが必要

破堤が多数発生するなどによりダメージが大きいだけでなく、事後対応も大変



- ・ 災害現象の急激な変化がないような施設とする必要
- ・ 災害現象の急激な変化を念頭においた避難警戒体制が必要

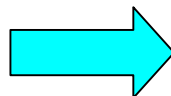
## 2. 社会的状況

高齢者や保育園児などの災害弱者の被災が特徴的



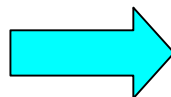
少子高齢化に対応した警戒避難体制が必要

地域コミュニティの衰退、水防団員の減少と高齢化など地域の共助体制が弱体化



現在の社会的状況に即した共助体制の再構築が必要

避難勧告の発令や伝達の遅れや、勧告が伝達されても避難しない人が多数



被災経験が減少し、危機意識が低下している中での、災害時に的確な認識や行動がなされるようにするための仕組みが必要

地下鉄、地下街など地下空間利用が増大している中での地下空間の浸水



都市の地下空間の浸水に対する的確な避難誘導体制の構築